



No 2465 平成11年 4月21日号

音楽舞踊新聞

THE MUSIC AND DANCE PRESS

月3回発行 1部120円 (消費税込)

発行所 〒111-0053 東京都台東区浅草橋4-9-5 TEL (0363) 1160 株式会社 音楽舞踊新聞 編集人 中野浩和 編集長 前野和典
創設者 中野浩和 1955年(昭和30年) 毎月1日・11日・21日発行 創刊号(1955年12月16日) 第三種郵便物認可

購読料 1年分5,000円 半年分2,600円 (1部120円)
送金方法 富士銀行浅草橋支店 株式会社 音楽舞踊新聞
[当座預金口座1970]又は郵便振替[00160-7-33266]
で株式会社音楽新聞社にお払込み下さい。

(株)音楽新聞社

〒111-0053 東京都台東区浅草橋4-9-5

電話・FAX/G3 (3365) 1160

手堅いがいま一步の妙味も

東京ニューシテイ管第13回定期

東京ニューシテイ管弦楽団の定期演奏会を聞くのはじめて、創立から九年目、オーケストラの編成はコントラーズ八人という、やや小ボウバ体制。設立以来の指揮者は一貫して内藤純。この日のコンサートにももちろん氏の指揮であるが、今回の興味のもう一つは、期待と注目のロシアのピアノ界の逸材ウラディミール・ミシュクを迎えてのシムニエンの協奏曲であった。オーケストラだけの曲目はブラームスの「ハイドン変奏曲」とシロスタコウツィチの交響曲第五番、いずれにおいてもいわば指書きの、手堅い演奏であった。それはそれで甚だ貴重なことであるが、その反面、いわば表味に対する裏味のような、あるいは言外の含蓄にたええられぬようなニュアンスがもうすこし感じられるようになるならばさらにベターであろうかとも思われた。

というのは、いま例にひいたブラームスも、協奏曲であるにしてもシューマンも、それにシロスタコウツィチも、いずれも無難、力強い演奏、あるいは着実さだけでは表現しきれない深奥の要素があまりにも多く、意味慎重にこめられている作品だからである。ブラームスの、どこか難屈を秘めた世界、シューマンの、表裏の次完と判然と分ちも扱えき

菅野浩和

